

平成29年度第2回桑名市入札監視委員会議事録

日 時 平成29年11月9日（木） 10:00～12:00

場 所 市役所3階第2会議室

出席者 桑名市入札監視委員会委員（5名）

東川 薫（委員長）

伊藤由美子（副委員長）

赤木 邦男

佐藤 久善

藤田 素弘

事務局（8名）

平野 勝弘（総務部 部長）

和田 克正（契約監理課 課長）

種村 悟（〃 課長補佐兼検査指導係長）

蒔田 宏之（〃 課長補佐兼契約調達係長）

河村あづみ（〃 契約調達係主任）

石川 友紀（〃 契約調達係）

稲垣 吉文（上下水道部 企画総務課 課長）

林 一博（〃 課長補佐兼総務係長）

工事担当課（4名）

高柳貴久蔵（財政課 主幹）

眞柄 光作（財政課 公共施設マネジメント係長）

出口 敏幸（土木課 課長）

中村 敏己（上下水道部 工務課 課長補佐兼下水道係長）

事 項

1 開 会

【事務局】

皆さん、おはようございます。

本日は、ご多忙の中、ご出席賜りまして誠にありがとうございます。

定刻、少し早いですが、皆さんお揃いいただきましたので、ただいまから平成29年度第2回入札監視委員会を開催させていただきます。

最初に、私どもの総務部長からご挨拶申し上げます。

【事務局】

おはようございます。総務部長の平野です。早朝よりお集まりいただきまして、ありがとうございます。

第2回の桑名市入札監視委員会ということでございます。

桑名市の入札の状況ですけれども、少しご説明をさせていただきますと、28年度、145件ございまして、落札率が85%というような状況でございました。29年度においては、最低制限価格制度を見直し、三重県と同様でございますが、これを見直したことによりまして、現状では90%の落札率で

推移しているというような状況でございます。

現在、本市において、今、不適切な事象というのは発生していないというような状況でございます。

しかし、国等におきましては森友・加計問題など、引き続き、入札を含めた経過、経緯、そういった不透明というように、問題視されております。

桑名市においては、今後も適正な事務執行に努めてまいりたいと考えておりますので、また引き続きご協力のほうをお願いしたいと思っております。

本日は抽出事案について5件となっておりますが、ご審議を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

簡単ではございますが、冒頭にご挨拶させていただきます。よろしくお願いいたします。

【事務局】

ありがとうございました。

本日の議事につきましては、お手元の事項書に基づきまして進めさせていただきますので、ご審議のほど、よろしくお願いいたします。

なお、本委員会は、入札監視委員会条例第5条第2項の規定を満たしておりますので、本会議は成立しておりますことをご報告申し上げます。

それでは、開会に先立ちまして、東川委員長からご挨拶を頂戴したいと存じます。よろしくお願いいたします。

【委員長】

お忙しいところ、どうもありがとうございます。

入札に直接関係はありませんけれども、皆さんご存じのとおり、大きいメーカーでいろいろ品質をめぐる問題等々起きております。この委員会は主に価格のほうで審査をするということで、当然、価格に見合った質などを審議することは、なかなか難しいことではございますが、本日もよろしくお願いいたします。

【事務局】

ありがとうございました。

ここからは入札監視委員会条例第5条第1項の規定に基づきまして、東川委員長に議事進行をしていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

【委員長】

それでは、早速、事項書に従いまして議事を進めてまいりますので、よろしくお願いいたします。

なお、本日の会議は一般公開としております。これ以降の審議につきまして、傍聴を希望される方がいらっしゃいますので、許可したいと思いますけれども、いかがでしょうか。

【委員】

異議なし

【委員長】

それでは、傍聴の希望者の方の入場のため、しばらくお待ちください。

それでは、お願いします。

傍聴の希望者の方、お待たせいたしました。なお、本委員会での写真、映像等につきましては、頭出しの部分に限らせていただきますので、よろしくお願いいたします。

2 議 事

(1) 入札及び契約手続きの運用状況について

【委員長】

それでは、早速審議に入りたいと思います。

議事の1です。入札及び契約手続の運用状況につきまして、事務局から説明をお願いします。

【事務局】

契約監理課の蒔田と申します。着座にて進めさせていただきます。よろしくお願いいたします。

それでは、お手元の資料によりまして説明させていただきます。

(1) 入札及び契約手続の運用状況について説明させていただきます。

資料の1ページをごらんください。

①の指名停止の状況でございますが、今回の審議対象期間であります平成29年4月から8月の4カ月間に指名停止を講じた件数は2件となっております。

このうち、本市が独自に指名停止を講じた1件につきまして説明させていただきます。

表の左側をごらんください。

市道猪飼2号線道路修繕工事につきまして、福田工業株式会社は、工事請負契約を締結したにもかかわらず、工期途中で工事用材料の発注がおくれ、現場への納入が間に合わないとの理由で工事続行不能届を提出し、工期内に完成する見込みがなくなったため、市の解除権をもって契約を解除いたしました。

これは、桑名市請負工事入札参加指名停止基準別表第1第4号の契約違反に該当しますので、契約締結者の福田工業株式会社に対しまして12カ月の指名停止措置を講じました。

説明は以上でございます。

【委員長】

ありがとうございました。

それでは、ただいまのご報告につきまして、ご質問、ご意見がございましたら、よろしくお願いいたします。

それでは、ただいまの説明につきましては以上とさせていただきますと思います。

(2) 抽出事案の審議について

【委員長】

では、続きまして、議事の(2)です。

抽出事案の審議についての項目に移りたいと思います。

審議に先立ちまして、抽出案件5件について説明を得るため、入札監視委員会条例第6条の規定に基づき関係者の出席を求めたいと思いますが、いかがでしょうか。

【委員】

異議なし

【委員長】

それでは、関係者の方の出席をお願いいたします。

(工事担当課 入室)

【委員長】

それでは、審議に当たりまして、今回の5件の抽出理由につきまして、佐藤委員のほうから説明をお願いいたします。

【委員】

おはようございます。

1 件目の旧勤労青少年ホーム解体工事を抽出しましたのは、発注金額が比較的高額である、6,000万を超えるものもございましたが、この案件は3,398万4,000円の予定価格でございました。そのほか、応札6者中4者が同額であったということで抽出をいたしました。

2 件目の光陵中学校飛散防止フィルム取付工事につきましては、応札9者中9者が、全者同額であったということと、同様の工事が大山田北小学校フィルム取付工事もございまして、これも8者同額であって、簡単な工事なのでこういう形なのかなという気もいたしましたけれども、若干違和感があるなということで抽出をさせていただきました。

3 件目の市道坂井多度線道路改良工事（大山田・御衣野）につきましては、これも2件目と同じですけれども、応札業者10者中10者、全者が同額であった。今回の案件の中で、土木工事、前もありましたけれども、道路整備あるいは修繕工事あるいは排水管設備工事など、こういった中で応札業者の多くが同額の入札をしているという案件がございましたので、抽出をさせていただきました。

次に、第4件目は江場城南幹線安永6丁目枝線污水管路施設設計業務委託でございますが、これは応札業者の中で失格が多かった、62者応札して15者が失格、39者が同額ということでございましたので抽出をさせていただきました。ただ、最終的に抽せんで同額の場合、決していただいたということでございますので、落札率は比較的这个、あまり高くはないので、ある意味、くじで決めるのが公平かなという感じもいたしましたけれども、抽出させていただきました。

最後は、積算業務委託業務（桑名本郷地区）でございますが、これは随意契約でございまして、この県建設技術センターとの随意契約が全部含めて期間中に5件ございましたので、こういう業務はここしか応札業者がない、あるいはもしくはこういうことをできる能力を持ったところがここしかないのかなとちょっとご確認をさせていただきたいなと思います。

ただ、落札率につきましては84%、85%ぐらいですので、これも比較的、普通なのかなという気もいたしましたけれども、ちょっとそういう1者というか、1者ではない、社団法人ですからあれですけど、随意契約をした理由を知りたいということで抽出をさせていただきました。

以上が抽出理由です。

【委員長】

ありがとうございました。

抽出事案 1 旧勤労青少年ホーム解体工事

【委員長】

それでは、第1案件です。旧勤労青少年ホーム解体工事につきまして、発注担当課から工事概要の説明をしていただき、その後、事務局から発注公告の内容と入札経過についてのご説明をお願いします。

【担当課】

総務部財政課です。よろしくお願いいたします。

工事概要につきまして、着座でご説明させていただきます。

資料3ページのほうをごらんください。

3ページのほうに工事概要がございまして、工事名、旧勤労青少年ホーム解体工事です。予算額3,780万、設計額3,670万2,720円、工期につきましては平成29年6月6日から平成29年9月29日まででございます。

工事場所につきましては、次のページ、4ページのほうをごらんください。

工事付近の付近見取り図になります。場所につきましては、旧勤労青少年ホーム、桑名市鍛冶町14番地、斜線の部分になります。

もう一度3ページのほう、戻っていただきまして、工事概要につきまして、建物構造につきましてはRC造、一部鉄骨造、基礎杭につきましてはコンクリートパイル、ファイ300、8メートル、97本、建物規模につきましては、建築面積285.89平方メートル、延べ床面積801.21平方メートル、

工事内容につきましては、旧勤労青少年ホームの解体、基礎杭の撤去につきましては、97本中11本、その他、基礎、コンクリート杭、アスファルト舗装の撤去後の整地、駐輪場の解体が工事概要になります。

こちらからは以上になります。よろしくお願いします。

【事務局】

続きまして、発注公告及び入札経過について説明させていただきます。

資料の5ページをごらんください。

入札方法は事後審査型条件付き一般競争入札です。中ごろに行きまして、入札の参加資格要件につきましては、解体工事業または建築工事業またはとび・土工事業の許可業者であること。所在条件は、市内、準市内までとし、発注業種の完成工事高は予定価格の2分の1以上であること、同種工事施工実績は平成19年度以降、官公庁が発注した案件で、建築物の解体工事または平成19年度以降、民間の発注した案件で延べ床面積800平米以上の建築物の解体工事の施工実績を有すること。技術者要件といたしまして2級建築施工管理技士以上の専任配置の主任技術者と現場代理人及びその他技術者として石綿作業主任者の配置を求め、以上の要件により公告いたしました。

次に、入札経過及び結果でございますが、6ページをごらんください。

平成29年5月24日に入札を行いましたところ、6者から応札があり、開札の結果、最低制限価格を下回った1者が失格となり、残りの5者が最低制限価格以上、予定価格以内で応札し、価格の低い4者が同額のため、くじにより三重同愛建設協同組合を落札候補者といたしました。その後、事後審査を行った結果、適格であったため、当該業者を落札者に決定し、税抜き3,058万円で契約を締結いたしました。

説明は以上でございます。ご審議のほど、よろしくお願いいたします。

【委員長】

ありがとうございました。

それでは、ただいまの説明につきまして、ご質問、ご意見がございましたら、よろしくお願いします。

【委員】

工事概要のところでお尋ねさせていただきたいのですが、解体工事ということですが、これ、杭が97本入っているようですが、今回はこのうちの撤去するのが11本ということで、素人の質問ですみません。こういうことで解体は終了するものなののでしょうか、ちょっと教えてください。

【担当課】

先ほどご質問ございましたように、基礎杭のほう、97本中11本ということでして、基本的には全て抜くというのが解体工事になります。

ただ、4ページのほうの付近見取り図のほうを見ていただきますと、実は敷地の隣とかに、近隣に建物の建設しておりまして、この敷地もこの後、もう一度、その他の建物を建てる、私ども市のほうの建物を建てる予定でありましたので、近隣の敷地というか近隣の住宅への影響の出ない範囲のものを抜かせていただいたということと、今後予定されておる建物を建てるのに影響を及ぼさないものにつきましては残させていただいたという形で、今回のものは11本だけという形にしております。

先ほどご指摘ありましたように、基本的に売却とかその他、手放すようなことになれば、地下にあるものも全て解体ということになるのですけれども、引き続き私どものほうの市有の敷地ということで扱うものですから、近隣への影響を考えまして影響のない範囲だけ抜かせていただいたという工事にしております。

以上です。

【委員】

ありがとうございました。

【委員長】

他はいかがでしょうか。

【委 員】

解体等の工事というのは、今回6者中4者が同額だったということですけど、前にもございました土木関係の相当とかそういう形で積算すると、よく同額になるという話ございましたが、こういった場合、これまでに気がつかなかったかわかりませんが、解体工事でこういう同額というのも今までもあったのでしょうか。

【事務局】

失礼します。事務局ですけれども、ちょっと詳しいデータまではちょっと持ち合わせていないものでございますが、私ども、もう皆さんご存じのとおり、事前に予定価格を公表しているというのもありまして、それに基づいて業者さんのほうで設計に対して応札のある程度、率もわかっておるような状況でございますので、そこで、数字を出してきたところでこうやって一致してしまうというのは、率も報告しているという形で現状なっていますので、やむを得るところもあるのかなという気もしていますし、過去のことはちょっとわかりませんが、ある程度落札率も、上限も決めてあるような状況ですので、こうやって合ってしまうというのは仕方ないところかなと思っております。

もう決して、高いところで落ちているわけではございませんので、市にとってマイナスにはなっていないと思っておりますので、ご了解いただきたいなと思います。

以上でございます。

【委 員】

私も落札率とかそういうのを見ると、これまでに一番高いのは99.何%とか、100%に近いようなものもあった中で、80%とか90%ぐらいで落札されておりますし、なおかつ、4者の中で抽選で決めるわけですから、極めて公平かなという感じもいたしますが、他にも同額の件がありましたので抽出させていただきましてということで、以上です。

【委員長】

他にありませんか。

【委 員】

これはちょっと直接関係ないかもしれませんが、今回の例えば、工事の見積もりの中で、杭を撤去する部分というのは、詳しく見ればすぐわかるでしょうけど、どれぐらいの割合というか費用ということになるのでしょうか。

【担当課】

今ちょっと手持ちに内訳資料がないものですから、もしよろしければちょっととってきてよろしいでしょうか。

【委 員】

そこまでは結構です。大ざっぱな形で、杭を抜くというような、解体のところでその作業があると随分、見積もりに影響してくるような種類のものなのか、そのあたりはいかがでしょうか。

【担当課】

ちょっと資料が手元にないので申しわけないのですが、基本的に、杭を抜くというのはある程度ウェートを占めてくるもの、解体工事の中でも比較的大きな金額になってまいります。

やはり地中にあるものを抜くということですので、手間とか、また、杭、コンクリートパイルということで、コンクリートの処分ということにもなってきますので、ある程度の比率を占めてくる部分の工事にはなるものでございます。

以上です。

【委 員】

ありがとうございました。

【委員長】

他はいかがですか。

それでは、この案件につきましては、特に問題なしといたしたいと思います。

抽出事案 2 光陵中学校飛散防止フィルム取付工事

【委員長】

それでは、次の第2案件です。

光陵中学校飛散防止フィルム取付工事につきまして、発注担当課のほうから工事概要の説明をさせていただいて、事務局のほうから発注公告の内容と入札経過について説明をお願いします。

【担当課】

引き続き、総務部財政課です。よろしくお願いいたします。

工事概要につきましては7ページのほうをごらんください。

工事名、光陵中学校飛散防止フィルム取付工事になります。予算額2,586万9,000円、設計額1,928万1,240円、工期につきましては、平成29年7月11日から平成29年9月15日までございます。工事場所につきましては光陵中学校になります。場所につきましては8ページのほうの地図のほうをごらんください。住所につきましては、桑名市大山田5丁目12番地の光陵中学校というふうになっています。

もう一度、7ページのほう戻っていただきまして、工事概要のほうになります。建物の概要につきましては、校舎がRC造3階建、屋内運動場がS造2階建、工事内容につきましては、校舎及び屋内運動場建具に飛散防止フィルムの取り付けという内容になっております。

フィルムの取り付け面積につきましては、校舎棟飛散防止フィルム428平方メートル、遮熱用飛散防止フィルム545平方メートル、型ガラス用飛散防止フィルム202平方メートル、屋内運動場飛散防止フィルム113平方メートル、遮熱用飛散防止フィルム101平方メートル、型ガラス用飛散防止フィルム23.6平方メートル。

こちらからは以上になります。

【事務局】

それでは、続きまして、発注公告及び入札経過について説明させていただきます。

資料の24ページをごらんください。

入札方法は、事後審査型条件付き一般競争入札です。中ごろの入札参加資格要件につきましては、建設工事業の許可業者であること、所在条件につきましては、市内までとし、経審点数は550点以上、発注業種の完成工事高は予定価格の2分の1以上であること、同種工事施工実績は、平成19年度以降、官公庁が発注した案件で建築一式工事の施工実績を有すること、技術者要件といたしまして、2級建築士または2級建築施工管理技士以上の主任技術者と現場代理人の配置を求め、以上の要件により公告しました。

次に、入札経過及び結果でございますが、25ページをごらんください。

平成29年6月28日に入札を行いましたところ、9者から応札があり、開札の結果、9者全てが最低制限価格以上、予定価格以内の同額での応札のため、くじにより株式会社マルキ松田組を落札候補者といたしました。その後、事後審査を行った結果、適格であったため、当該事業者を落札者に決定し、税抜き1,606万円で契約を締結いたしました。

説明は以上でございます。ご審議のほど、よろしくお願いいたします。

【委員長】

ありがとうございました。

それでは、ただいまの説明につきまして、ご質問等ございましたらよろしくお願いいたします。

【委員】

これだけ多くの業者が同額だというふうになっていますけれども、大体1枚幾らという相場が、1枚幾らというか面積当たり幾らというのはもうほとんど業者もわかっていて、そういう値を出してくるというイメージなのでしょうか。

【担当課】

よろしいですか。財政課になります。

基本的には私どもも国の積算基準とかにのっとっておりますので、ある程度、今言われたように、単位面積当たりの金額とかというのは刊行物とか、そういったものに出ておりますので、ある程度、業者さんというか施工されるところも想定がつくのではないかと考えております。

【委 員】

ちょっとすみません。先ほど、見ていますと、いわゆる入札価格につきまして、要するに条件が整えば皆さん大体工事金額というのはこんなものだというのがそろってきて、これだけ全部、同じ価格を出すことが可能であるというようなご説明のように聞き取ったのですけれども、予定価格は出ていて、最低制限価格というのは事前公表していないのですよね。

先ほどの案件もそうですが、業者さんこれどうやって計算しているのかなとちょっと思ったときに、予定価格掛ける0.9で、万円単位に1000円未満をカットする、そうするとぴったりこの金額になりますね。先ほどそろっている業者も同じ計算です。

だから、わからないですけど、予定価格を出す時点において、基準価格というのも大体想定がついているということなのじゃないかなと思ってしまうのほうだった見方でしょうか。ご意見をお願いします。

【事務局】

失礼します。

事務局ですけども、先ほど財政課のほうから、ちょっと説明ありましたが、大体の単価というのは業者さんのほうも大体想像されていて、私ども予定価格を事前公表しながら、その後、細かい話ですけど、一般の経費率とか工事費、率等も公表しているという形で、それが予定価格から割り出してくればある程度の業者さんであれば想定がつくものなのかと、そういう形、思っております。

予定価格から割り出せるということが今の、予定価格を出している以上、こういう形になってしまうのかなと思います。

以上です。

【委 員】

こちら、今回の件でいうと、例えばですけど、この9業者のうち1業者が1,600万ジャストにすると、その業者というのは失格という扱いになるのですか、まずそれを教えてください。

【事務局】

事務局でございます。

1,600万という、最低制限価格が1,606万円という形で算出しておりますので、たとえ1万円でも安くなった場合は、申しわけないけど失格という形になります。

【委 員】

その1,606万の最低制限価格というのは、これ、今回、要は9者同額だった、その結果こうなるということでしょうね。1,606万の金額というのは、これ、結局9者が全部1,606万の結果ということですよ。

つまり、私申し上げた1者だけ1,600万のときの最低制限価格というのも、これ1,606万円ということなのでしょうか。

【事務局】

そうでございます。

【委 員】

計算上そうなるわけですね。

そうすると、これ、意見ということになるかもしれないですけど、要は、どうしてももっと安くしてもとりたいという業者がいたときに、要はこの9者のうち、どこという角が立つのであえて言いませんけど、例えばどこかが、うちどうしてもとりたいといって1,600万入れても、結局、失格になるわけですね。

つまり、何かそうなると、囚人のジレンマじゃないですけど、そういう形で、市にとってみれば安く発注ができる、業者も安く頑張りたいという人が、結局周りにあわせたいというか、それをすると結局失格を食らうので、くじ引きにするしかないとかという、こういう単純な業務であればあるだけ、そういうちょっと矛盾というか、何か改善できないのかなというのが私の意見です。いかがですかねということです。

【事務局】

事務局です。

確かに金額が安くなれば市にとって助かるわけですが、安かろう、悪かろうでもちょっと困るという面もありますので、一応私どもとして、一つの設計からそれぞれの率を掛けて、これが適正価格だのように思っておりますので、現在はこれでいきたいということで、たとえ1万円でも安いには越したことないことでございますけど、一応1つの決まりとしてこれですと入札をやっているということで、本当にせつかく頑張っていたときには失格ということになりますけれども、どうかご理解いただきたいなと思っております。

以上でございます。

【委 員】

教えていただけるかどうかわかりませんが、このたびのものというのはいわゆるフィルムの取り付け工事ということで、見積もりのほうでこの材料と工賃というものの割合、このいわゆる当初予算額なのか、予定価格なのかというのはあれですけど、とりあえず全体に対する材料の比率というのは大体どれぐらいのものなのですか、こういう工事ですと。

【担当課】

一応、先ほどのご質問、材料費がどれぐらいを占めるかということですが、直工として出ているものは、材工ともの平米単価で出すものですから、この値段、ちょっと内訳というのはどれぐらい占めておるかというのはちょっとすみません、資料として今ちょっと持ち合わせていないものですから、わかりませんね。

【委 員】

わからないということですね。

【担当課】

戻ればあります。資料としてはありますので。

【委 員】

わかりました。

【委員長】

他にございますか。

それでは、この案件につきましては、問題なしといたしますけれども、先ほど委員のほうからもご意見ありましたので、すぐどうこうということはありませんけれども、入札の方式というのはいろいろな条件もありますが、入札のやり方など検討していただきたいと思います。

抽出事案 4 江場城南幹線安永6丁目枝線污水管路施設設計業務委託

それでは、次の第3案件です。予定ではこの第3案件として市道坂井多度線道路改良工事という予定になっていましたが、ちょっと業務の都合上で最後の第5案件のほうに順番を変えたいと思いますので、その点をご了承お願いします。

では、最初の順番でいくと第4案件、江場城南幹線安永6丁目枝線污水管路施設設計業務委託につきまして、発注担当課から委託概要を説明していただき、その後、事務局から発注公告の内容と入札経過についての説明をお願いいたします。

【担当課】

第4案件の上下水道部工務課から説明させていただきます。

資料の31ページ、委託概要書のほうをごらんいただきたいと思います。

委託業務名といたしましては、江場城南幹線安永6丁目枝線污水管路施設設計業務委託でございます。予算額といたしましては、1,400万円、設計額は1,373万600円でございます。履行期間といたしましては、平成29年7月31日から平成30年1月31日まででございます。

業務の概要といたしましては、桑名市公共下水道事業計画に基づき委託いたします。設計業務といたしまして、設計の内容でございますが、管渠詳細設計ということで、下水の污水管路の推進工法の設計の設計業務となっております。

ちなみに、污水管路の延長は約380メートルとなっております。

また、設計に必要な地質調査業務といたしまして、1カ所行っております。

設計業務の場所ですけれども、次の32ページをごらんいただきますと、位置図のほうに黒の破線で示してございます場所が今回の設計業務の委託箇所となっております。

場所といたしましては、国道1号線と国道258号線の交差点、いわゆる安永の交差点の南東方向の桑名市道に下水の污水管路を布設する設計業務となっております。このあたりの污水の整備を行うための污水管路を設計するという業務でございます。

以上です。ご審議のほど、よろしくお願いいたします。

【事務局】

続きまして、発注公告と入札経過につきましてご説明を申し上げます。上下水道部企画総務課でございます。

資料につきましては、33ページの発注公告をごらんください。

まず、入札方法につきましては、事後審査型条件付き一般入札でございます。入札参加資格要件につきましては、建設コンサルタント登録規定による下水道部門の登録があること、所在地につきましては、県内に本社、本店または支店、営業所で登録をしていること、技術者要件につきましては、技術士の資格を有する管理技術者と、技術士、技術管理者またはRCCMの資格を有する照査技術者を配置することといたしました。また、同種業務履行実績といたしまして、平成19年度以降、官公庁が発注した案件で、下水道管渠設計業務の実績を有することとして公告いたしました。

続きまして、入札経過及び結果でございます。資料につきましては、34ページから38ページまでをごらんいただければと思います。

平成29年7月18日に入札を行いましたところ、62者から応札がございました。開札の結果、15者が最低制限価格を下回ったため失格といたしました。そして、有効な入札のうち、最も低い価格で応札をしたものが39者ございましたので、電子くじによりまして、株式会社西日本設計三重事務所を落札候補者とし、事後審査を行った結果、適格でありましたので、当該事業者を落札者と決定いたしまして、税抜き価格1,026万円で契約を締結いたしました。

説明は以上でございます。ご審議のほど、よろしくお願いいたします。

【委員長】

ありがとうございました。

それでは、ただいまのご説明につきまして、ご質問があれば、よろしくお願いいたします。

【委員】

今回の污水管路の施設設計の業務委託、期間中にもう一件、あれもあつたように思いますけれども、非常に多くの業者が応札をしてみえますけれども、これまでもこうした設計業務で、ほかの案件に比べて設計委託業務というものは応札業者が非常に多いというので、これはいわゆる卓上だけでやるというとおかしいですけど、机の上でいろんなものを詰めながらやれるということで多いのかなという気もいたしますが、それ以外に何か理由がございましたら、教えていただけますか。

【担当課】

ご質問に関しましてお答えさせていただきます。

あくまでも推測ですけども、業務期間とか業務の内容的なものに何らかの魅力があつて、これだけの応札者が来たのではないかと、これもあくまでも推測ですけども、過去の事例からいいましても、このような時期に設計業務等を出すとかなり多くの業者さんが応札されます。

以上です。

【委員長】

他は。

【委員】

さっきと似た話のちょっと確認ですけど、今回、これは別に談合があつた云々とか、そんなこと何も言っているわけではなくて、純粹に数字の、要は数字を見ただけの話になってしまうんですけど、要はこれ、1,025万円グループといったら変ですけど、チームというか、1,025万円が15者で、1,026万円が39者あつたということですけど、これが例えば逆の場合だとか、39者が1,025万円で、15者が1,026万円ですと、これ、最低制限価格が1,025万円になると、結果、39者の1,025万円がくじ引きになると、こういう理解でよろしいですか、まず、1つですが。

【事務局】

上下水道部でございます。

最低制限価格につきましては、1,026万円という額がありますので、今おっしゃられたような逆の場合ですけども、1,026万円が最低制限価格になろうかと思ひます。

【委員】

そうなのですか。要は、そこは、私、理解が足りないのかもしれないですけど、今回、1,025万円が15者ですが、これが逆にもっと多くて39者、逆に15者が1,026万円でも最低制限価格は1,026万円になるということですか。計算の仕方を教えてもらったかもしれないですけど、そこはちょっと理解が足りないので教えていただければと思ひますけど。

【事務局】

事務局でございます。

今のご質問で、一応私どもは変動制をとっておりますので、一応この基準価格以上で予定価格範囲内の業者の数に0.6を掛けさせていただいて、その有効な業者の入札価格の平均となりますので、若干変動する場合があります。

上へ上がる場合があると思ひます。下がることはないですけど、1,026万円が1,027万円になったりすることはありますので、その場合は1,027万円が最低制限価格になりますので、若干変動する場合があります。

【委員】

要は、今回、数十者の中で、このあたりの数字を多くの会社がされているところですけど、その人数によってほんとうに失格者が大量に出るという事態が、こういうことであるわけですね。

【事務局】

可能性としてはあると思ひます。

【委員】

ありがとうございます。

【委員長】

他はいかがですか。

【委員】

今のお話と似たようなことなのですが、もちろんその最低制限価格というのは絶対守るというスタンスでこういう制度というのが成り立っているということは理解しているつもりですけども、反面、これは非常に素人的な考えだと思ひますが、これをとらんがために、いつとき問題になりましたような1円入札みたいなこと、これはやはりよくないと思ひますけれども、ここで見たように、いわゆる1,026万円を境として、上下もうほんとうに5%にも満たないようなずれの範囲の中で、素人的な意見

です。私が見ると、これぐらいの幅だったらその範囲の中で安いところとれるような方法ってできないのかなと、要するに、業者としてめちゃくちゃ無理な価格を、いわゆる安売りせんがためにやっておるわけでもなさそうだというようなものについてはとれないのかなと、ちょっとすみません、全く素人の意見で、入札の制度にはそれはそぐわないのかもしれませんが、何かその辺、できないのかなと思ってしまいました。

以上です。

【委員長】

それでは、他にはいかがですか。

【委 員】

前、聞いたかもしれないですけど、確認ですが、変動型最低制限価格制度というのは、基準価格を上回った分の最低価格よりも上のところで契約するという話ですか。

【事務局】

おっしゃるとおりで、今、桑名市がやっているのは、基準価格を上回ったところで一応、同額の場合は一応抽せんという形をとっています。

それと、変動する場合は、その基準価格を上回った業者の数に0.6をかけて、有効な業者数を算出し、有効業者の応札価格の平均となりますので、若干そこで変動する場合があります。今年度は今のところないですけど、万円止めにしましたけど、ほとんどの皆さん額が一緒になっちゃうものであまり変動しませんが、昨年までは一応1,000円止めにしていましたので、そこで若干、少し基準価格を上回ったという例はありましたので、ないとは言えませんが、少し変わる場合もあります。

以上でございます。

【委 員】

去年は、だから、1,000円止めだからちょっと変動していたけど、今年は万止めだからほとんど一緒になるということですか。ほとんどみんなが最低制限価格になっているのですけど、あんまり変動していないということは、どうなのでしょう。

【事務局】

事務局でございます。

皆さんが揃って基準価格に入れていただいた場合は、まず変動しません。もうその金額でくじ引きしちゃいますので、それが若干基準価格を少し上回って、例えば1,000万円が基準価格で、1,100万円の方がかなり多かったという場合は、そこで計算し直した、割り返したときに最低制限価格が上がるということはありませんけれども、一緒の場合ですとまずあり得ないと思います。

【委 員】

そうすると、基準価格というのが予想できるということですけど、先ほどの話にもあった、予定価格から基準価格が予想できるみたいな話があったのですけど、どういう、これは規定で決まっていたのでしたっけ、最低制限価格の設定基準はどういう基準でしたか。

【事務局】

事務局でございます。

一応、設計額の中で、工事費とか仮設費とか、一般経費というものがございまして、それに決まった率を掛けて私ども基準価格を出しています。

業者さんには、予定価格は発表していますけど、基準価格の算出の率も一応言っていますので、ただ、単価は全然、数字は出していませんけれども、ある程度、そこら辺はもう業者さんの今までの経験とか、それぞれの単価ではじき出して計算されておると思いますので、それはあくまで想像ですけど、こういうふうな形で一致してしまうのかなと思っております。

【委 員】

最低制限価格の基準となる価格の率の設定のところは、妥当なのですか。

【事務局】

事務局でございます。

これ、一応、私も、以前は国の中央公契連モデルというのがありまして、その率にあわせていたのですが、今年度から三重県が出している最低制限価格の率にあわせていただいておりますので、その率で基準価格を今出しておりますので、県内、三重県に私も今、準じてやっているというところで、それで業者さんのほうもある程度それで想定して出していると思っております。

【委員】

いいですか。ちょっと確認させていただきたいのですが、変動型最低制限価格制度を採用しておりますけれども、変動型、変動するというのは、市のほうで設定した基準価格よりも上回った価格で全者が入札した場合に最低制限価格が変動するけれども、もともと市が設定した基準価格を下に変動するということはないわけですね。あり得ないわけですね。

【事務局】

それはありません。あくまでも基準価格から若干少し高く入れた方と全体で割り返した中で少し上がるという形で、下がるということはおっしゃったとおり、ありませんので。

【委員】

もともと低入札といったものを予防するために、あるいは事前に漏れた場合にというのを防止するために変動型最低制限価格制度を採用しているわけですから、市が設けた基準価格よりも下回る、例えば、さっきの話で60者あって、五十何者がそれを下回った価格、それはもうみんな失格ですもんね、そういうことですね。了解しました。

【委員長】

他いかがですか。

【委員】

別の話になりますが、このたびは入札参加資格要件の所在地基準のところ、市内業者、準市内業者、県内業者というふうになっております。これって、それぞれ何者ずつあるか教えていただけますか。

【事務局】

上下水道部でございます。

今回のこの案件につきましては、市内業者はございません。準市内が17者、県内が113者、合計130者という対象がございます。

以上でございます。

【委員】

ありがとうございました。

桑名市内にいらっしゃらないというのがちょっと残念なことかなというふうに思います。このように、皆さんがたくさん応札されるような案件に関しては、市内の業者さんがあるといいのにと思いました。

【委員長】

他いかがですか。

【事務局】

事務局です。一応補足になりますけど、今回、500万円以上の設計になりましたので、一応、先ほど上下水道部の担当が言いましたけど、500万円以上は一応県内までというふうに私も設定しておりますので、必然的に県内まで広げるとこれだけの業者数になったのかなと思っております。

【委員長】

それでは、この案件につきましては、特に問題なしといたしますけれども、今後の研究として、例えば、基準価格の下の方何%までは含めて変動していくかどうか、そういう、素人なのでむちゃを言っているかもしれませんが、そういう検討もしていただければと思います。

抽出事案 5 積算業務委託（桑名本郷地区）

それでは、最初の順番ですと第5案件になります。積算業務委託、桑名本郷地区につきまして、発注担当課のほうから委託概要を説明していただき、その後、事務局から発注公告の内容と入札経過のほうについて説明をお願いいたします。

【担当課】

第5案件の説明をさせていただきます。

資料の39ページをごらんください。

委託概要といたしましては、委託業務名、積算業務委託（桑名本郷地区）でございます。予算額といたしましては、450万円、設計額は403万2,720円、履行期間は、平成29年6月26日から平成29年12月16日まででございます。

積算業務の内容といたしましては、ちょっと裏の40ページに位置図がございます。ちょうどたいま桑名駅の駅西の区画整理事業を行っている場所ですけれども、区画整理事業とあわせまして汚水の整備を行う工事の工事費を算出するための積算業務となっております。位置図に示してございますように、これも推進工法という特殊なトンネル工法の工法でございます。

3カ所、区画整理地内にございまして、その3カ所の工事費を算出するための積算業務を行っております。

積算業務につきましては、41ページに随契理由書及び内申書でございますけれども、その下のほうに随意契約の理由が記載してございます。

ちょっと読ませていただきますと、本業務は、桑名市公共下水道事業における污水管路施設工事の積算を行うものでございます。委託先は三重県公共工事積算システムの技術、経験及び知識を有し、発注者支援機関として認定されている公益財団法人三重県建設技術センターと随意契約を締結するものでございます。

以上が委託業務の内容となります。ご審議のほど、よろしくお願いいたします。

【事務局】

続きまして、見積もり経過及び結果についてご説明をいたします。資料の42ページをごらんください。

平成29年6月20日に見積もり合わせを行いまして、指名業者の公益財団法人三重県建設技術センターから見積もりを徴しましたところ、予定価格の範囲内で行いましたので、税抜き価格317万円で契約を締結いたしました。

説明は以上でございます。ご審議のほど、よろしくお願いいたします。

【委員長】

ありがとうございました。

それでは、ただいまの説明につきまして、ご質問等ありましたらよろしくお願いいたします。

【委員】

今の随意契約の理由の中にございました発注者支援機関として認定されている団体というのは、ほかにも県内にあるのでしょうか。

【担当課】

工務課です。

三重県内では、技術センターが唯一認定されている機関になります。

【委員】

従いまして、こういう今の推進工法とか、そういった形の積算業務を委託する場合には、いわゆるもう県の建設技術センターと随意契約をするしか、今のところはないということです。

【担当課】

入札にかかる積算業務ですので、中立性とか守秘性とか、公正性が求められますことから、公益機関である唯一の技術センターと随意契約をしているということになります。

【委員】

相手が公益の財団法人ですし、落札率も妥当かどうか私はわかりませんが、八十数%ということで別に問題ないと思うのですが、ただ、ここしかないのかなというのだけちょっとひっかかりますので、抽出させていただきました。

以上です。

【委員長】

他はいかがですか。

【委員】

基本的には、同じような市での積算業務については全てここに委託するという現状ですかね。

【担当課】

工務課です。

積算業務に関しましては、上下水道部では全て技術センターのほうに委託させていただいております。

【委員】

この積算業務自体を役所の中でやられるということもあると思うのですが、そういう場合と委託する場合というのはどういう、ルールとか何かあるのでしょうか。

【担当課】

工務課です。お答えさせていただきます。

今回のこの本郷地区の推進工法の積算業務に関しましては、随契理由にもございますように、知識とかかなり必要で、推進工法にもかなり種類があって、職員のほうでなかなかそれほどの知識とか経験を有した者がおりませんもので、技術センターのほうに適正に発注事務を行うという観点から委託しております。

【委員長】

他はいかがですか。

【委員】

これは、近隣の、三重県以外の愛知だとか、岐阜県のほうの市町もこういう似たようなことでしょうか。それぞれの県にこういうところがあってという、参考までに。

【担当課】

工務課です。

技術センターというのは各県下にあると思います。でも、三重県に関して申し上げますと、他市町さんも発注支援機関ということで、三重県、それから、市町村も発注支援を、積算業務等を建設技術センターのほうに随意契約しております。

【委員長】

他はいかがですか。

【委員】

三重県に1つしかないということで、公益財団法人ですし、問題はないと思うのですが、例えば、これは愛知県とか、そういうところにあるところへ聞いてみるというのはできない話なのでしょうか。それとも、それをやると何か問題があるというか、いかがでしょうか。

【担当課】

工務課です。

委託費用の積算業務の、工事の工事費を算出する設計基準とか、その辺が三重県下は三重県の制定しておる積算基準を使っておりますもので、また他府県となりますと、若干積算の基準とかが違うところもあると思いますので、三重県内の工事であれば三重県の積算基準を使っておりますもので、三重県の技術センターにしか委託ができないので、他府県に行くとちょっと若干違うところが生じてきますもので、支障が出てきます。

【委員】

わかりました、ありがとうございます。

【委員長】

他はいかがですか。

それでは、この案件につきましては、特に問題はないといたしますけど、今すぐどうこうではないですけど、いろいろ特殊な工事等もあると思うのですけど、勉強していただいて、なるべく外に出さなくても市で積算出来るよう長期的にはしていただきたいと思います。

抽出事案 3 市道坂井多度線道路改良工事（大山田・御衣野）

それでは、最後、後ろに回しました、最初の順番でいうと第3案件になります。市道坂井多度線道路改良工事について、発注担当課から工事概要について説明していただき、その後、事務局から発注公告の内容と入札経過についての説明をお願いいたします。

【担当課】

都市整備部土木課の出口と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

工事内容についてご説明を申し上げます。

恐れ入りますけれども、資料の26ページの工事概要書ををお願いいたします。

工事名は、市道坂井多度線道路改良工事（大山田・御衣野）、予算額2,030万円、設計額は1,681万9,920円で、履行期間は、平成29年8月1日から平成29年11月9日まででございます。

工事箇所は、桑名市大山田及び野田地内で、資料27ページの箇所でございます。工事内容といたしましては、施工延長157メートル、アスファルト舗装工、面積1,260平方メートル、路上路盤再生工、同じく1,260平方メートル、区画線工一式、舗装版破碎工、面積1,260平方メートル、集水桝清掃工一式となっており、老朽化や大型車の通行量の増加などにより著しく損傷をしております当路線の舗装を改良することで、道路交通の安全を確保とするものでございます。

次の資料28ページは工事図面でございます。

図面は左半分が平面図でございます。図面の右側上にございますのが、標準断面図で、断面図の右半分、これが既設部分になりますけれども、既設の厚さ、10センチのアスファルトを撤去いたしました後、その下にございます、厚さ20センチの路盤につきまして、そのうち厚さ11センチの部分に、下の表にございます設計条件を満たすよう、セメント系の添加剤による路上路盤再生工を施工し、路盤の改良を行った後、再度アスファルト舗装、区画線を施工するものでございます。

工事概要の説明は以上でございます。ご審議のほど、よろしくお願いいたします。

【事務局】

それでは、続きまして、発注公告及び入札経過について説明させていただきます。

資料の29ページをごらんください。

入札方法は、事後審査型条件付き一般競争入札です。入札参加資格要件につきましては、舗装工事業の許可業者であること、所在条件は市内までとし、経審点数は450点以上、発注業種の完成工事高は、予定価格の2分の1以上であること、同種工事施工実績は、平成19年度以降、官公庁が発注した案件で、舗装工事の施工実績を有すること、技術者要件として、2級土木施工管理技士または2級建設機械施工技士以上の主任技術者と現場代理人の配置を求め、以上の要件により公告いたしました。

次に、入札経過及び結果でございますが、30ページをごらんください。

平成29年7月19日に入札を行いましたところ、10者から応札があり、開札の結果、10者全てが最低制限価格以上、予定価格以内の同額での応札のため、くじにより株式会社佐藤組を落札候補者といたしました。その後、事後審査を行った結果、適格であったため、当該事業者を落札者に決定し、税抜き1,387万円で契約を締結いたしました。

説明は以上でございます。ご審議のほど、よろしくお願いいたします。

【委員長】

ありがとうございました。

それでは、ただいまの説明につきまして、ご質問等ありましたらよろしくお願いします。

【委員】

これまでも特に土木建設工事、その他につきましては、こういった形のいわゆる大体わかっておるからほとんどの業者が同じような額を入札するという形で同額になって、その後、抽せんをするという形ですと、抽出事案のところの理由のときにも申し上げましたが、多くの業者が同額になって、これで落札率が九十何%、99%、100%というならちょっとどうなのという形になろうかと思うのですけれども、90%あるいは八十数%というのが妥当なのかどうかは別として、多くの業者が同額を入れた中でくじで決めるのですから、いわば公平であるといえ公平かなという気はしたのですが、全者が同額だったというのはまた、どうなのかなという気もしましたので抽出させていただいたのですが、今申し上げた以外に何かそうした、今回はこういう形で同額になってしまったなというのが、こういうことがあったのかという思い当たる理由というのがありましたら教えてください。

【事務局】

事務局でございます。

これはという理由は、先ほどから申し上げますけれども、設計額の予定価格を公表している、それに、工事費、仮設費等の経費率も公表しているという形で、そこでもう率のほうで積算すればそれぞれの単価は公表しないですけど、もう想定されてしまうということで、また、基準価格は予定価格の10分の9から10分の7までの範囲内としておりますので、そんな形で計算していくとこうなってしまうのかなというのが現状で、一緒の答えで本当に申しわけないのですが、そういう形になっていると思っております。

別にこれ、全然、業者さんに何も聞いていないのでわからないですけど、もう想像ですけども、そういうふうに思っております。

以上でございます。

【委員長】

他はいかがですか。

【委員】

入札とは関係ないかもしれませんが、この工事箇所が、道路の老朽化、アスファルトがでこぼこになったことが理由で改良されるのかなということですけど、こういう改良というのはどんどん、非常に短い区間、全体からすると、どんどんこれからもこの路線全体でやられていくのですか。

【担当課】

土木課でございます。

当路線につきましても、全体の延長が1キロ以上ございます。

そういった中で、今もう26年度から事業を始めまして4年目になっておりますけれども、まだ進捗率は半分程度でございます。引き続き、舗装の損傷部分を改修していきます。

市内におきましても、こういった幹線道路で舗装が損傷している箇所がほかにも、今、同じように事業を進めている路線がほかにも5路線ございまして、こちらについても同じように年度計画を立てまして、国の交付金を活用して改修工事を進めているところでございます。

【委員長】

他はいかがですか。

それでは、この件につきましては、特に問題なしということにしたいと思います。

それでは、以上を持ちまして抽出事案の審議を終了いたします。発注担当課と傍聴人の方はこれで退席をお願いいたします。どうもありがとうございました。

(工事担当課 退出)

【委員】

次回の審議案件の抽出は、東川委員長です。

(3) その他

【委員長】

その他ですが、何かございますか。事務局のほうから何かございますか。

【事務局】

特に事務局はございません。

3 閉 会

【委員長】

それでは、これをもちまして平成29年度第2回の桑名市入札監視委員会を終了させていただきます。

なお、本日の審議概要につきましては、後日、事務局でまとめていただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。本日はどうも、ありがとうございました。